

# 雲のうえ 36

二〇二二年 伊三夫

北九州市





## 「住む」より「楽しむ」BESSの家

自然の木をふんだんに使った BESS (ベス) の家。  
とても個性豊かな家たちです。  
BESS がめざすのは、その家の先にある楽しい暮らし。  
手をかけながら、毎日を愛おしむ。  
家族がおおらかに笑いあう。  
そんな暮らし、感じに来ませんか？

個性豊かな木の家がいろいろ。楽しい暮らしを体験できる場。

ログウェイ  
**LOGWAY**  
**BESS**北九州

国道三号線遠賀バイパス沿い

〒811-4331 遠賀郡遠賀町別府3713-3  
TEL.093-291-1700 (代)

営業時間  
10:00-18:00

定休日  
水曜・木曜(祝日は営業)

交通 | 最寄駅・JR遠賀川駅から約3.5km



https://kitakyushu.bess.jp

ログウェイ  
**LOGWAY**  
**BESS**博多

福岡空港から車で6分

〒812-0863 福岡市博多区金の隈1-39-7  
TEL.092-583-3700 (代)

営業時間  
10:00-18:00

定休日  
水曜・木曜(祝日は営業)

交通 | 最寄駅・JR南福岡から約4km  
西鉄雑餉隈から約3.5km



https://hakata.bess.jp



感染症予防対策を万全にして皆様をお迎えしております。



# 聞かせてください

## 社長さん。

# 北九州市の

# 好きなところ、

# 明日のこと

皆さん、最近いかがお過ごしですか？

ここ数年、新型コロナウイルスの蔓延や戦争、円安など世界情勢は  
穏やかとはいえず、地元にも目を向ければ、<sup>たんが</sup>旦過市場の火災もあり……。

この不安定な時代の中、北九州市の企業の社長さんたちは、  
どのように今を見つめ、明日を思い描いていらっしゃるのでしょうか。

北九州という街への「市民としての」思いを尋ねてみました。

写真 | 久家靖秀

文 | 宮本恵理子、高橋亜弥子

本文手描き文字 | 牧野伊三天

掲載した「肩書」年齢、プロフィール、会社概要などは、  
2025年11月時点の情報です。



宮本恵理子

目次

特集

聞かせてください社長さん。

北九州市の好きなところ、

明日のこと

2 株式会社安川電機 小笠原浩

8 TOTO株式会社 清田徳明

14 第二交通産業株式会社 田中亮一郎

20 株式会社井筒屋 影山英雄

28 株式会社不動産中央情報センター 濱村美和

30 シヤボン玉石けん株式会社 森田隼人

34 株式会社サンキュードラッグ 平野健二

38 黒崎96の日実行委員会 池本綾女

39 株式会社Mahal.KitaQ 宮坂春花

40 株式会社クアード 下岡純一郎

41 岡野バルブ製造株式会社 岡野武治

「雲のうえ」36号

表紙の画・題字 | 牧野伊三天

アートディレクション | 有山達也

編集 | 高橋亜弥子

校正 | 齋藤晋

©北九州市 2022

本誌記事・写真・イラストレーションの無断転載を禁じます。

©表紙の画について  
タイトル「蒼い海と北九州市民」 2022 年作  
蒼くかがやく洞海湾、清流をとりもどした紫川。  
僕らは、この街にどんな未来を思い描き、構築していくのだろう。

# 株式会社 安川電機

代表取締役会長兼社長

## 小笠原 浩

67歳

おがさわら・ひろし  
1955年愛媛県松山市生まれ。九州工業大学情報工学科卒業後、安川電機製作所（現・安川電機）入社。2016年代表取締役社長に、2022年代表取締役会長兼社長就任。日本電機工業会（JEMA）会長など業界の牽引役も務めながら、社内では人づくり推進担当、ICT戦略担当を兼務している。

北九州市との縁は学生時代から。当時、始めたばかりだったコンピュータに興味を持ち、最先端の技術を学ぼうと、地元・愛媛を飛び出して九州工業大学に進学しました。大学では戸畑、安川電機の社長になってからの勤務地は黒崎（八幡西区）、今は小倉に住んでいますから、合併前の旧5市のうち3市に暮らしたことがあるんですよ。

今日はたまたま東京の事業所で取材を受けていますが、普段の生活の拠点は北九州です。休みの日は市内のゴルフ場で汗を流したり、妻とコストコに買い物に行ったり。小倉駅前のルミエールにもよく行きますよ。産直野菜が揃っている朝早めに出かけてね。カートを引くのは私の仕事です（笑）。大学の同窓会も定期的に開催していて、この10月もやりました。卒業してもう43年経ちますけどね、東京で声をかけて40人中10人は集まるんだから大したもんでしよう。よく会う同窓仲間の中に、副市長の梅本和秀もいます。

ね、実は学生時代からの親友なんですよ。同じ年に情報工学科に入って、出席番号が近くてすぐに仲良くなりました。なぜか「あ行」の姓が多い学年で、梅田、梅本、小笠原、奥田、川上、栗田……ここまで全員仲良く留年しました（笑）。

それだけ勉強が難しかったのかと勘違いされそうですが、そんなことはなくて、街が魅力的すぎたのです。九工大は戸畑の街中にありましたから、下宿から大学に行くまでに雀荘やらパチンコ屋やら誘惑がたくさんあって、なかなか大学に辿り着かない（笑）。小倉競輪で勝った日には「丸源ビル」の Snackbar に行くのがお決まり。学生でも安く飲めるお店を先輩から教えてもらっては、のびのびと大学生活を謳歌していました。今でもあの辺を早朝に散歩すると、若い人たちが賑わっていますが、堅苦しくない空気が昔からありました。





そんなふうにつきり北九州の街に染まって、地場の安川電機に就職したものですから、言葉も北九州弁が染みつきました。愛媛出身でもっともは関西気質だというのに、全部、梅本のせいです（笑）。

梅本とは今でも年に何度かは飲みに行きますし、会っては学生時代の延長のたわいもない話ばかりしていますが、酒の肴に「北九州がもっと元気になるにはどうしたらいいんかね」みたいな話をすることもあります。

「観光、観光つち言いよるけど、ほんとに観光で特徴出せるのか？」と突っ込んだり、「小倉駅前の土地、開発がうまくできんのやる？ それやったら、あの土地を全部買い取ってシンガポールのマリーナベイサンズみたいな統合型リゾート施設をドーンと建てて、ステージにはSMA Pとか呼んで、SMA Pはもう解散したか。とにかく誰か呼んでショーをやってもらうんよ。ステージの下は合法カジノ。小倉駅から直通で行けるようにして、県外からどんな人を集める。となれば、空港までぶち抜くかあ？」なんて好き勝手に話して「分かった、分かった。さ、次の店に行こか」とたしなめられたり（笑）。

まあ、カジノは極端だとしても、5市合併後の「街の中心」をちゃんと開発して、そこに人が集まる場所にせんといかんですよ。北九州市は鉄で発展した街だけれど、今は、新しいシンボルが絶対に必要なんです。

時代は「カーボンニュートラル」「クリーンエネルギー」

の流れですから、電力供給の安定化はこれからの社会問題になります。例えば安全性が高い発電施設を作って、電力供給もしながら新しいレジャー施設を小倉駅裏に作ったらいいんじゃないか。「世界のカジノ」といえば、ラスベガス、マカオ、小倉」と言われるくらいに。

こんなことを言っているといつも「突拍子もない」「アホか」と笑われますけどね、街の「ずっと先の話」をいろんな人が自由に話すというのが大事なんじゃないかと私は思っているんです。

それが正しいのかは分かりません。分からんけれども、周りの人の記憶に残って、「あの人、こんなこと言いよったね」と先々にも語り継がれるような「ずっと先の話」を交換することに意味がある。それを受け取った人たちが「あの人と言ったようにはできんけれど、やりたかったのはこういうことじゃなからうか」と、形を変えた何かを受け継がれていく。そうして街の未来はつながっていくものじゃないかなと私は思います。

経営も同じなんです。トップの役割は、「大ホラ吹き」。つまり、すぐには実現できそうもない理想を掲げるってことです。できそうなことからちまちまと積み上げていくようでは、次の世代に残せるようなものではない。自分の任期とか寿命で全うできるくらいの目標じゃ、次につなげてもらえませんかね。

「あの社長、こんなことをやりたがってたよね」と人の心に残せるものを発しなければ。もしも次世代に否定されたとしても、少なくとも「選択する」というきっかけをつくれるでしょう。だから、梅本にもよく「ビジョンは何だ？」という話をするんですよ。ビジョンは、「できそうもないけれど、できたら面白いね」と思えるくらい大きいほうがいい。なんだかんだで角が取れて現実的に着地する頃には、ちょうどいい塩梅になりますから。

そして、ホラにも「いいホラ」と「悪いホラ」があって、違いは「関わる人たちに還元されるものかどうか」。何年、何十年と経った後に、市民あるいは会社の皆さんが「よかったな」と感じられる起点をつくるホラでなければ。

それでいうと、私のカジノプランの本質は「公営ギャンブルで稼ぐ街にする」というものではなくて、もっと先にある。鉄の街にまつわる土地を一举に変えて、白い砂浜の海岸のある風景をつくれたらいいなあ。そんなイメージが頭の中に浮かんでいます。

街の明日を語り合うときは、今見えている風景の修正や改善から考えるのではなくて、まったく新しい風景を想像してみる。そんなことから始めてみたいですね。なんかカッコつけよるなと梅本から笑われそうですが、単純にそのほうが面白いでしょう？ それに、ないものをつくるほうが利害も絡みにくいから、案外早く話も進むかもしれない。

「北九州市をもっと元気に」と考えるときには、「じゃあ、どうして今は元気なのか？」という疑問も湧きます。

その答えの一つは、年長者に向きすぎたことじゃないかと思うんです。一時期、「高齢者にとって住みよい街」の力を打ち出したのはよくなかった。街の中でしっかりと稼いで遊んで、しっかりと税金を納めてくれる若い人たちにこそ魅力をアピールせんといかんでしょう。

じゃあ北九州市にその魅力があるのか？と聞かれたら、「十分にある」と言えますよ。何かというと、豊かな生活インフラです。道路や上下水道、住宅地や医療・教育施設といったさまざまな機能において、工業都市として栄えた時期に整備されたインフラがしっかりと揃っているんですよ。製鉄で栄えた街だから、大型の船に対応した港も整備されている。

ここで強調したいのは、「人口減の今だからこそそのメリット」です。各種インフラが一斉に作られた人口100万人超の時代と比べると、今は住民の数は減っている。ということは、一人当たりのスペースがゆったりと取れる。住居費も福岡市と比べて抑えられますし、緑豊かな公園で窮屈な思いをせずに遊べる。これは若い人たちにとってプラスですよ。

だから、この良さをもっとアピールしたらいいと思うし、年長者は黙って見守りましょうよ。「若者に寛容で、若者

が元気になれる街」と全国に知れ渡れば、北九州市は今よりも若返るでしょう。

一度、某地元企業の社長と北九州市の未来について話したこともありましたが、企業のトップ同士が話をするとだいたい考え方は似ていて、「そもそも福岡市と闘うのか、闘わないのか」という話になる。まあ、実際には闘わない道を選んでいるのだと思いますが、ならばもっと特長を分かりやすく打ち出さないといけないよねという結論になりました。「若い現役世代が住みやすい街」、いいでしょう。

「子育てしやすい街」というアピールはいろんな自治体が行っていますが、シンブルに「若い人が住みやすい街」と謳ったほうがいいと私は思いますね。若者がのびのびと暮らせて、街中でちょっと弾けることもできて、年寄りとも仲良くできる。そんな魅力が北九州市にはあるし、もっと磨けるはずだと思います。

魅力を発信するだけではなく、より多くの人に住んでもらうための策も必要ですよ。

ちょっとしたアイデアはあります。小倉と博多間の割安な定期券を平日限定で発行するんです。すると、「福岡で働き、北九州に暮らす」というライフスタイルの提案ができる。ゆとりある生活環境のあるベッドタウンとしての価値を発信できたら、働き盛りの元気な人たちが街中にもつ

と増えるはずです。

そして、その暮らしの中に、「地元企業で働く日常」も自然と溶け込むものだと思います。

私たちは世界に向けて商売をしています。黒崎に本社を置く北九州企業です。多くの社員が北九州市に暮らしていますから、「北九州市民としての暮らし」と「安川電機社員としての働き方」は一体化しているんですよ。まさに今日も象徴的でした。九州北部に

大型台風が直撃する予報が出たので、本社勤務の社員に対しては休業に、どうしても仕事がある人は在宅勤務可と昨日時点で決めたんです。なぜなら、市内の公立学校が休校を決めたからです。早めに会社が休業を判断することで、お子さんがいる社員は安心しますよね。「暮らしやすい街」とはこういう日常の積み重ねで、実感できるものじゃないかと思うんですよ。

そして、緊急時の判断を可能にするのは、総務系の担当者や市や地元企業との連携あってこそ。やっぱり日頃のコミュニケーションがものを言います。新型コロナウイ



#### 株式会社安川電機

- 創立=1915年(大正4年)7月16日
- 本社所在地=北九州市八幡西区黒崎城石2番1号
- 資本金=306億円
- 従業員数=連結14,880名(臨時従業員含む)
- 売上収益=連結4,791億円(2022年2月期)
- 主な事業内容=創立時の電動機(モータ)の開発・製造から、「事業の遂行を通じて広く社会の発展、人類の福祉に貢献する」という経営理念に基づき、時代と共に最先端の技術の開発・製造で発展。メカニズムとエレクトロニクスの融合“メカトロニクス”を提唱し、産業用ロボットの世界的なメーカーとして知られる。

# TOTO株式会社

代表取締役 社長執行役員

## 清田 徳明

61歳

きよた・のりあき

1961年福岡県北九州市生まれ。長崎大学経済学部卒業後、東陶機器（現・TOTO）株式会社に入社。2008年ウォシュレット生産本部長兼TOTOウォシュレットテクノ代表取締役社長に就任。2016年代表取締役 副社長執行役員を経て、2020年代表取締役 社長執行役員就任。

戸畑の山笠や八幡の起業祭、小倉の祇園に門司のみなど祭り……。大学時代の4年間を除いて北九州で過ごしてきた私の人生は、市内各地の賑わいの記憶で彩られています。

特に思い出深いのは、小学校の遠足で毎年行った到津の動物園（現・到津の森公園）ですね。1年生の頃は黄色い帽子をかぶって6年生に手を引かれ、6年生になると自分が1年生の手を引いて。成人して家族ができてからは、戸畑の実家に帰りがてら動物園に立ち寄りしました。「親子二代で象にリンゴをあげた」というのが私の自慢です（笑）。あの動物園も一時は存続が危ぶまれましたが、残って本当によかったと思います。

一人の住民としてつい鼻屑目になってしまいましたが、北九州市は魅力が詰まった都市だと感じています。産業と文化が根付いた都市でありながら、自然も豊かで食べ物も美味しく、夜景もきれい。人もあったかくて、電車に乗る時

間ひとつとってもホッと心を緩められる。都市と田舎の二面性を併せ持った「いいとこどり」の街です。

おすすめのエリアポイントを挙げるとしたら、小倉城を望む紫川の川沿いエリアでしょうか。天気がいい休日には、コーヒーとサンドイッチを買ってカフェのテラス席でゆっくり過ごします。隣に見える市役所の庁舎も、建った当時はモダンなデザインでキラキラとしてカッコ良かったですね。なぜこの場所が好きかというと、私は城めぐりが趣味でして、実は家内と「日本百城」制覇をするのが目標なのです。ようやく20城ほどまでいきました。

食事でも美味しいですよ。安い居酒屋からフレンチレストランまで、街中で外食もよくしますよ。自宅で料理？ そうそう、2年ほど前のステイホームの時期には自宅で料理にもハマりました。学生時代に飲食店でアルバイトしたときの感覚を思い出しながらチャーハンや野菜炒め





を作って。何かの取材を受けたときにも話したのですが、片付けがなくなつて長続きせず、今はその話題はできるだけ避けるようにしています（笑）。

こうして私の日常を見渡してみると、北九州という街と切っても切り離せない、それも子どもの頃からの記憶と確かにつながっているものだなと、あらためて感じますね。大学を出た後の就職先にTOTOを選んだのも、子どもの頃の『感動の記憶』が原点となっているのです。

その記憶とは、私が子どもの頃に急速に普及した下水道整備の歴史とも深く関わります。私が住んでいた家にも下水道が敷かれ、トイレの便器が和式から洋式に変わりました。その便座が当時はまだ珍しかった暖房機能付きの便座でして、その快適さに驚いたことを鮮明に覚えています。

温かい便座が当社の製品だとは当時は知らなかったのですが、しばらく後に出合った「お湯が出る洗面台」にも感動しました。私は冷たい水で顔を洗うのが苦手で、わざわざポットでお湯を沸かして使っていたんですね。蛇口をひねるだけでお湯が出ることがこれほど生活の満足度を高めるのかと、真新しい洗面台をよく見ると「TOTO」の文字が。北九州市内にある会社だと知り、地元産業を誇らしく思うと同時に、のちに「ぜひここで働きたい」と採用試験を受けたのです。

当社はもともと「東洋陶器」という社名で創立し、今年で105年目を迎えます。創立者が大正時代に欧州を視察した際に、健康で文化的な暮らしぶりに触れ、まだ下水道すらほとんど行き渡っていない日本の社会課題を解決しよう一念発起し、始まった会社です。

社名に「東洋」と冠したのは、創立時より海外を見据えていたから。北九州を本拠地と選んだのは、荷出しや燃料調達をしやすい港が近い地の利を生かすためと聞いています。以後ずっと変わらずこの地から、世界に向けて高品質の製品提供を続けています。

私自身は主にウォシュレット事業に携わり、国際事業全体を統括する職務も担ってきましたが、やはり当社の根幹は「衛生陶器」のものづくりにあると思っています。材料や窯の選定から、高性能な製品を設計するための技能技術すべてにおいてノウハウの塊であり、なかなか真似できるものではありません。

現在はベトナム、タイ、中国など海外にも生産拠点を置いているのですが、各地で衛生陶器生産に携わる社員にとって、創立の地である北九州はまさに「聖地」。各国で厳しい予選を勝ち抜いた職人たちが集まって、その腕を競う技能選手権を定期的に開催していますね。腕自慢が真剣勝負して、敗退したら「これでは母国に帰れない」と涙する社員もいたり。ものづくりに向ける情熱を感じる場面が多々あります。

ありがたいことに、今や18の国と地域で事業を展開し、海外を含めて約3万7000人が働いています。大きな組織を一つにまとめていくには、「こんな社会課題解決をして、世の中に貢献していこう」といった思いを、日頃から皆で共有するコミュニケーションを強く意識しています。

企業の社会貢献が注目される今だからということではなく、当社は創立の理念がそもそも社会課題解決だったので、事業を一生懸命発展させることが、省エネや節水や環境改善など社会をよりよくする行動に自然とつながっていく。そこに共感して入社を決めてくださる若い方も増えているようです。「自分の仕事は、こんなふうな世の中のためになっているんだ」という腹落ち感をいかに持つてもらえるか。そのためのコミュニケーションが、社内に対してやるべき社長の仕事だと思っています。

例えば、ベトナムの製造現場の社員が、日々便器を作りながら「この便器がベトナムで売られて、国民の生活がよくなり衛生的になることは、自国の発展への貢献になる」と考えることができれば、モチベーションはより高く、仕事の精度や技術も上がるはず。我々は世のために働く集合体なのだという共通認識を育てていく。そのために力を入れているのが、社内の「対話」の機会です。

特にここ数年はオンラインで簡単に話ができる環境も整ってきましたから、私が現場の若手社員の皆さんと直接対話しながら、私の考えを話したり、現場の意見を聞いた

りと、お互いの思いを交換する時間を増やしているんです。私自身もとても勉強になりますし、管理職を介して知るよりもはるかに現場のことを把握できますね。若い人と話す時、しっかりと自分の考えを持って会社の未来について語れる方が多く、頼もしく感じています。経営者と現場の社員は立場が違うようでいて、実は考えていることの根幹は同じだな、と感じることは多いんですよ。

もちろん、全員が手を挙げるわけではありませんが、リーダーシップを取れる人たちが中心となって周りを巻き込んでいけば、我々の若い頃以上に頼もしいと思います。特効薬はなく、それぞれの思いを伝えて、高め合っていく。これは企業でも地域の発展でも、同じことが言えるのではないのでしょうか。

北九州に暮らし、個人としても企業としても関わりながら思うのは、本当に皆さん一人ひとりがこよなくこの街を愛していらつしやるということです。一人ひとりが街の未来をつくっていくリーダーなんですよ。

中でも将来を担うお子さんたちの存在は重要です。以前、商工会議所の仕事をした際にもあらためて、北九州市には「親子の思い出」を提供できる資産がたくさんあるなあと再認識しました。各地で受け継がれるお祭りや季節の行事、Jリーグチーム・ギラヴァンツ北九州の応援などなど。私どもも、「TOTOMIミュージアム」や工場の見学ツアー

です。

創立者の理念や代々の諸先輩方が残した行動規範は、書き物として残り、さらに海外の社員にも読んでもらえるように各地の母国語に翻訳して完全に共有できるようにしているんです。

その中の一つが初代社長が残した「どうしても親切が第一」という理念です。「どんなときにも他者や社会に役立つことを第一に考えて行動せよ」という教えなのですが、これを継続的に共有に努めてきた結果が素晴らしい行動につながり、胸を打たれたエピソードがあります。

私が社長に就任して間もなかった2020年春、新型コロナウイルスの感染拡大で世界中が混乱に陥った時期の話です。中国や日本でマスク不足が深刻となったことを知ったヨーロッパの社員が、あきらめず、粘り強く情報収集し、インドに在庫があることを突き止め、インドの社員に連絡。連絡を受けたインドの社員がマスクを買って終業後の時間を使って仕分けし、中国と日本の工場に送ってくれたんです。現場の社員たちは本当に助かったと喜んでいましたし、事業の継続のためにも重要なアクシヨ



#### TOTO株式会社

- 創立=1917年(大正6年)5月15日
- 本社所在地=北九州市小倉北区中島2-1-1
- 資本金=355億7,900万円
- 従業員数=連結36,853名(2022年3月末現在)
- 売上高=6,453億円(2022年3月期)
- 主な事業内容=トイレ、浴室、キッチン、洗面など住宅設備の水まわり製品を中心に研究・開発・設計・製造・販売を行う。新領域事業としてセラミック製品の開発販売。温水洗浄便座のトップシェアを誇る「ウォシュレット®」は、2022年に国内外の累計販売数が6,000万台を突破した。

を企画したり、敷地内での夏祭りを開催したりと、ご家族で参加できるイベントを通じて、親子の思い出づくりに貢献したいと考えています。

子どもの頃の体験のインパクトはとても大きいですが、私自身も、象や洗面台の記憶から自然と北九州に愛着が湧いて将来の道を選択した一人ですが、子どもの頃に「すごいな」「楽しいな」と感じた思い出は、先々まで長く心に残って「この土地にずっと住みたいな」「大人になったらここで働きたいな」と、次世代をつなぐ基盤になるはずですよ。一人ひとりの心の中にそんな思いが育ったときに初めて、北九州市の20年後や30年後の発展が考えられるのではないかと思います。

個人の心の中に、それぞれの「聖地」が息づく街になるように。企業が長く続けば、親子二代で工場見学の思い出話ができるかもしれません。私たちのビジネスにとっても、海外との距離も近く、環境都市としての姿勢を明確に示す北九州市に本拠地を置くことは、非常に大きな強みになっています。これからも、将来をつなぐ次世代に愛着ある記憶を生む存在でありたいですね。

最後にもう一つ、ちょっと我が社自慢になってしまいましたが、私が感銘を受けた出来事について話をさせてください。グローバルに事業を展開している企業を経営するうえで、皆で共有できる理念を大事にしているという話の続き

ンでした。

私が何も指示をしていないところで自然発生的に、国境を越えた助け合いの行動が生まれたのはなぜか。

自分たちは社会のために働いているのだという誇り。共に働く仲間を大切にしている気持ち。理念を共有し会社に愛着を持つからこそ助け合いではないでしょうか。

きっと街も同じです。この街とこの街の人が好き。そんな思いの集合体としての北九州市の未来を、私もその一員としてつくっていきたいと思っています。

# 第一交通産業株式会社

代表取締役社長

## 田中 亮一郎

63歳

たなか・りょういちろう  
1959年東京都生まれ。青山学院大学経済学部卒業後、全国朝日放送(現・テレビ朝日)入社。1994年、義父が創業した第一交通産業株式会社に入社することになり、北九州へ。取締役、専務、副社長を経て、2001年社長に就任。現在、全国34都道府県の拠点にあるグループ会社175社をまとめる。

過疎地域での乗り合い、お買い物代行、墓参り代行、妊婦さんの移動サポート。これ、全部、当社がやっているサービスです。「タクシー会社がどうしてここまで？」と驚かれますが、地域貢献をしないと生き残れないのが私たちの商いなんです。

そもそもタクシー事業者としての免許は各地の自治体からいただくもの。だから、「会社が大きくなったから東京に引っ越そう」なんて浮気はできないんですよ。それぞれの地域でしっかりと売り上げを立ててお客さんを増やしていかないと成り立たないビジネスなのでね。自然と、その街を元気にするお手伝いをすることになる。街が元気じゃないと、自分たちも元気になれませんから。そうそう、「介護タクシー」も北九州市発祥って知っていますか？ 介護保険の制度ができたときに、市内のタクシー会社数社で話し合っただけで始めたんですよ。北九州市は全

国平均と比べて5年早く高齢化が進んでいる地域ですから、ある意味で「課題先進都市」。知恵や工夫を先取りすれば、全国のお手本になれるんですよ。

過疎化によって電車やバスが運行をやめてしまった「交通空白地域」が、全国に4500カ所あると聞いたのが10数年前のこと。今やそれを上回る4700カ所の空白をタクシーが埋めています。当社も全国のタクシー会社と提携して率先し、地域の方々の「ファーストワンマイル」「ラストワンマイル」を助ける移動手段を提供する取り組みを広げています。つまり、最寄りの駅やバス停まで行けない、帰れないという不便を解消して、いくつになってもアクティブに活動できる人生を応援する。あんまり儲かる商売ではないですが、きちんと免許を持つ事業者が担うことで、皆さんも安心していただけるはずですからね。「タクシーのおかげで生活が便利になったね」と思ってくくださる人が増え





るほうが我々も発展します。

使っていたくうちに、便利な乗り物だと思っていたのか、「みんなでタクシーに乗ってカラオケに行きたいから、毎週水曜15時にお迎えよろしく」といったいろんなリクエストも増えてきました。運転手も地元住民ですから、自然と関係性もできてくるようです。

妊婦さんの通院に使っていたく「ママサポートタクシー」の運転手さんは、お腹に6〜7kgの重りをつけて階段を上り下りする研修も受けています。万が一、車内で分娩となってしまう場合に備えて厚手のタオルと防水シートも準備。実際、これまで7〜8人ほど、うちの車内で出産された方がいます。墓参り代行でも何でも、地域の方からの「これもお願いできる？」に応えることから始まったもの。ただし、運転手さん全員に強制でやらせようののではなくて、立候補制です。地域のために手を挙げてくれた人に、仕事がいっぱい集まる仕組みにしています。地域の課題解消と共に自社が発展する。つくづくこれしか、生きる道はありません。

仕事柄、全国いろんなエリアを見てきましたが、「北九州市は元気がない」とは思いませんよ。元気もやる気もある人がまだまだいますし、街のポテンシャルも高い。やろうと思えば何だっできる街だと思います。

ただ、何かをやるうというときには、関わる人のベクト

ルを合わせないと大きな力にはなりませんよね。全員のベクトルを全部同じ方向に合わせる必要はなくて、だいたいの方向さえ合っていればいい。そのベクトル合わせの役目は大事だなと思いますね。

私が2014年に北九州市の観光協会会長に就いたときも、そんなことばかりやりましたね。その前から観光関連の取り組みには関わっていたのですが、まず驚いたのは、観光協会が厳しい経営状況だったんですよ。会議に出ると、「あれもやめる、これも縮小」といった後ろ向きな話が多くて、それも観光系の団体がいくつもあってメンバーはほぼ同じ。似たようなイベントをそれぞれが企画するから、来場者も分散する。「一本化して、一緒に盛り上げましょうよ」と提案して、市の観光部署もまとめて同じビルの同じフロアに同居したんです。そして、行事の計画を共有して、「この日は北九州市内で一斉にイルミネーションが点灯する日にしよう」と足並みを揃えて。警察にも最初から会議に入ってもらって、警備計画も効率的に進めると、すごくスムーズになりましたね。

2012年に招致したご当地グルメの祭典「B-1グランプリ」では、本部の反対を押し切って、勝山公園とあさの汐風公園の市内2カ所で開催したんです。なぜなら街を盛り上げるイベントに「関わる人」を増やしたかったから。2カ所の間にある商店街の皆さんに「開催期間中は人がたくさん通りますよ。好きなことをやってください」と伝え

たら、その日だけ焼きうどんを売り出している店もありましたね(笑)。事前に「B-1は行列がすごいから前売りチケットを使い切れない」と不満を聞いたもんだから、使い切れなかった分のチケットは商店街でも使えるようにしたんですよ。結果、蓋を開けてみたら、2日で来場者61万人。いまだに抜かれていない記録だそうです。大事なのは、できるだけたくさんの人を巻き込んで関わってもらうこと。「俺は関係ないもん」と言わせない。

例えば、フアッションイベントの「東京ガールズコレクション」をメディアアドームで開催できたら、1万数千人の女性たちが小倉駅から会場までの街中を歩くことになるでしょう。「わっしょい百万夏祭り」も小倉でばかりやるんじゃなくて、来年は八幡でやってもいいと思う。

旧5市を1つにまとめようと頑張りがちだけど、むしろ徹底的に競わせたほうが面白いんじゃないかなと思っっているんですよ。実際、いまだに合併したと思っていない人たちもいるわけなんだし(笑)。いろんな意見はあったとしても、みんな北九州が好きという点では一致しているんでしょう。ならば自分も動く。「言ったからにはやる」というのが僕のモットーです。

僕も北九州に暮らして30年になります。今は黒原くろはらの山の斜面地に建つ家に住んでいるんですけどね、ベランダから小倉南区が一望できるんです。仕事を終えて、沈みゆく夕

目を眺めながらボーツと街の風景を眺める時間が一番好きです。海もあり、山もあり、本州へつながる入り口であり、アジアも近い。「北九州は、暮らしとビジネスのどちらにも利点が多い街だね」と他県の経営者からも羨ましがられるんですよ。

休みの日にはできるだけ出かけたいような地域を回るようにしています。今は控えているんですが、営業所の様子をよく見に行っていました。管理職がいる平日に行くとしたらがられるから（笑）、週末にふらりとアポなしでね。例えば宮崎で経済同友会の会合に出席した翌日、ゴルフに向かう前に早起きして営業所に立ち寄るんですよ。夜の場合ほだいたい22時とか23時に。シフトの交代のタイミングだと、運転手さんに会えますからね。

「僕、社長なだけで知ってる？」と声をかけると「えー！なんでこんなところにいるんですか」とビックリされたりね。「最近どう？」「結構忙しいよ。社長は何しに来たんね」「今からゴルフよ」。そんな会話をするだけで、普段の働きぶりとか管理職との関係をなんとなく感じられるんです。それに、単純に交流が楽しい。あるとき、海岸に隣接した営業所に寄ったら、ぶくんといい匂いがしてね。裏を覗いたら、仕事を終えた運転手さんが小さな青魚をたくさん釣って、フライにして食べてたんですよ。あれは美味しかったなあ。

「僕、社長なだけで知ってる？」と声をかけると「えー！なんでこんなところにいるんですか」とビックリされたりね。「最近どう？」「結構忙しいよ。社長は何しに来たんね」「今からゴルフよ」。そんな会話をするだけで、普段の働きぶりとか管理職との関係をなんとなく感じられるんです。それに、単純に交流が楽しい。あるとき、海岸に隣接した営業所に寄ったら、ぶくんといい匂いがしてね。裏を覗いたら、仕事を終えた運転手さんが小さな青魚をたくさん釣って、フライにして食べてたんですよ。あれは美味しかったなあ。

に、もっと表に出てきてもらいたいなと思います。北九州市の代表的企業というところ、まず安川電機さんやOTTOさんを想起する方が多いでしょう。世界に誇れる立派な製造業が北九州にどっしり根を張っているというのは、大変心強いですよ。しかしながら一方で、それに甘えてはいかんと思わなければならない。製造業の会社さんの場合、人と工場は北九州にあったとしても、売り上げの拠点はここではありません。本当の意味で地域に向けて商売をしているのはサービスマンなんです。だから、北九州の地でサービスマンを担う若い経営者の方々にもっと積極的に出てきてもらって、街を盛り上げていただきたいなと期待しています。今回の『雲のうえ』に登場している、元気で若いリーダーの方々が連携して街を盛り上げていけば、北九州市の未来は明るいですよ。

大事なものは、失敗してもいいから、自分たちの力で試行錯誤してみること。会社経営でもよくあるのですが、何かを始めようとするときに安易に外から専門家を連れてくるのは、いい結果につながりません。社員の関心が薄れ、文句が先に立つようになるからです。

なんで社長がこんなにあちこち顔を出すのかというと、やっぱりいろんな人の声を聞かないと、方針が定まらないからです。リーダーたるもの、自ら動いて、さまざまな人の声を聞くとするコミュニケーション力を磨かなければ。今、全国のタクシードライバー40万人のうち、女性は1万人程度。うち1割はうちで働いてくれているのですが、ここまで増えた道のりも「声を聞く」から始まったんですよ。東北地方の営業所に行ったとき、見かけた女性ドライバーに声をかけて「これからもっと女性を増やしたいから、仲間を連れてきてくださいよ」とお願いしたら、「社長、ちょっと来てください。ここに女性を連れてこられると思いますか？」と見せられたのが更衣室。男女同室で、トイレの配慮も足りていなかった。すぐに改装工事を決めて、営業所内保育所の増設もスピードアップしました。繰り返しになりますが、「言ったからにはやる」がモットーですからね。上に立つ者が有言実行を示せば、全体の雰囲気もそうやっていくんじゃないかと思っています。

そうやっていろんな人の声を聞きながら確信しているのは、「北九州市はもっと力を発揮できるぞ」ということです。北九州企業のパワーも相当のものです。火災に見舞われた且過市場に向けて、短期間であれだけの寄付が集まったことも象徴的だったと思います。だからこそ、もっとその存在感を日頃から地域の皆さんに身近に感じてもらえるようだから、たとえ時間がかかってもいいから、「こんなことをやってみよう」とアイデアを出し合って、やってみよう。うまくいかなかったとしても、みんなで反省会をして再チャレンジすればいい。街をつくる一員として自ら試行錯誤を重ねることが、やがて街に対する愛着につながり、街を盛り上げる熱意あるリーダーを増やすことになるはず。私もまだまだ頑張りますが、もう60歳を過ぎていますからね。若い方々がもっと街づくりに関わりたくなくて、手を挙げやすくなる環境づくりに努めていきたいと思っています。



#### 第一交通産業株式会社

- 創立=1960年(昭和35年)6月
- 設立=1964年(昭和39年)9月
- 本社所在地=北九州市小倉北区馬借2-6-8
- 資本金=20億2,755万円
- 従業員数=12,743名(臨時従業員含む)
- 売上収益=928億円(2022年3月期)
- 主な事業内容=タクシー事業を中心に、バス事業、住宅分譲、不動産賃貸、医療介護、金融など、地域社会のニーズに対応しながら「総合生活産業」として事業を多岐に展開する。グループ内でのタクシー認可台数は8,141台(2022年9月現在)で全国1位を誇る。

# 株式会社 井筒屋

代表取締役兼社長執行役員

## 影山 英雄

70歳

かげやま・ひでお

1952年福岡県北九州市小倉北区生まれ。明治大学商学部卒業後、株式会社井筒屋入社。入社直後に配属されたのは食品売り場。1995年井筒屋本店紳士服部部长、2005年社長室ゼネラルマネージャー、2006年5月に執行役員、2008年執行役員黒崎店長に、2010年、57歳で社長執行役員に就任。

「北九州市の思い出を」と聞かれても、何と答えたらいいものか。私は今年70歳になりますが、大学生活と井筒屋の東京事務所と久留米で勤めた計9年間を除いてずっとこの街で生きてきました。思い出も日常も、いいことも悪いことも、ゼーんぶこの街に溶け込んでますから、自分自身と一体化しているというのかな。あらためて語るのにはちょっとおかしな感じがしますね。

思い出を挙げるときがありませんよ。私が生まれ育った家は富野という山の麓にありましてね、6棟並んだアパートに同じ年頃の子どもがやたらたくさんいました。半ズボンにランニングを着て、お袋が作ったお守りを首から下げたね、わーっと走るだけの遊び。体の大きい上級生から「走れ！」と言われたらアパートの周りを何周もして。小文字山の麓の小さい丘まで行くと、昔戦争で使った高射砲が残っていましたね。犬の骨を見つけて怖くなって騒いだり。

今の子どもたちには考えられないくらいに遊びに没頭しておりました(笑)。

1時間ほどかけて井筒屋まで走ったこともあって、ちょっとした大冒険でした。昔は紫川の川べりにボートハウスがたくさんあったんですよ。子どもでも5円か10円払えばボートを借りて自分で漕げたので、よく競走して遊んでいました。海に近づくにつれ波が高くなってね、「どこまで行けるか」と度胸試しをしていたんですが、子どもながらに「落っこちて川の水を飲んだら死ぬな」と思っていました。なぜって、水が恐ろしく汚かったですからね。

今はもうゴルフの打ちっぱなし施設になりましたが、当時は川上に製紙工場があつて廃液は全部垂れ流しだったでしょう。今は見違えるほどきれいになりましたね。でも、あの頃の汚い紫川のあった風景も、私にとっては人生の一部です。市庁舎のすぐ近くにあったジェットコースターも



よく乗りましたね。

中学に上がってからは音楽にハマりました。私はどんぴしゃのビートルズ世代でしょう。ローリング・ストーンズも好きになって、エリック・クラプトンやレッド・ツェッペリン、当時のスターが来日するたびにたまたま学生で東京にいたので、コンサートに行きました。パンクだけは好きになれませんでした。ジャンルはヘビメタに落ち着きました。スリープというバンドに、1曲聴くのに50分くらいかかる『エルサレム』という曲がありましたね、酷<sup>めい</sup>酷<sup>てい</sup>するような重低音がいいんですよ。

話をしながら『雲のうえ』編集委員の牧野さんに言われて気づきましたが、ビートルズはイギリスの工業都市・リバプールから生まれた音楽グループでした。北九州の街を歩きながら聴くのにぴったりかもしれませんね。

こう見えて一人で家で過ごすのが好きでして、本もよく読むほうです。読書家だった親父の影響で、子どもの頃から『三国志』や『吉川英治全集』を読み耽<sup>おぼ</sup>っていました。最近読んで最高だったのは、南米の作家ロベルト・ボラーニョが書いた『2666』。900ページ近くある超大作で、頭がおかしくなりそうな話が延々続くんですが、最後は人間の本質にぐっと迫る。傑作でしたね。

映画も好きで、学生時代からたくさん観ました。通っていた小倉高校では文化祭の日は、柔道部が門番をするんです。私は主将でしたから門番は下級生に任せて、映画館で



サボって『イージー・ライダー』を観に行きましたがちょっと物足りなかったな。私的ベスト3を挙げるとしたら、『タクシードライバー』とフェリーの『道』、それからサム・ベキンパーの『ワイルドバンチ』。どうも、滅亡の美学<sup>めい</sup>みたいな世界観が好きなんです。フィクションとして安心して楽しめるスプラッター系も趣味に合います。

おぼろげな記憶ですが、昔観た昭和30年代の石原裕次郎の映画で、小倉の街を舞台にした『錆びたナイフ』という作品があったんですよ。小林旭が女の子を乗せてバイクで街中を駆け抜けて、昔の玉屋さんの前から勝山橋を渡って、井筒屋へというシーン。裕次郎が暮らす部屋のカートンを開けると、窓から小文字山から足立山にかけての山並みがきれいに見えていました。我が街の風景が映画のフィルムに残るといのはなかなか嬉しいものですよ。

井筒屋としてロケ地協力したこともありますよ。「文化に協力できるのなら何でも喜んで」と承諾したのですが、蓋を開けてみれば店が爆破されて看板が落ちるシーンだったから、後でちよつと怒られましたけれどね（笑）。

やはり文化とか教養は、街の発展のために大事だと思いますよ。北九州は工業で発展した歴史があつて、当時築いた財産は脈々と受け継がれています。決して派手ではないけれど、堅実に利益を上げている二代目・三代目も少なからずいらつしやいますから、これからも「ものづくりの街」を貫くのがいいんじゃないかと私は思いますね。

環境未来都市を目指しながら、最先端の技術を誇る工場が埋め尽くす街。加えて、提案したいのは「教育」への投資です。ものづくりの街でありながら、教育レベルも高い街。いいでしょう？ 北九州のちよつと荒い雰囲気には不似合いたと分かっていながらも、もしもそうなら面白くないじゃないか。教育に本気で力を入れるとなると、20年、30年の計が必要になりますから、市政にもいい変化が生まれると期待できますよ。やっぱ、他にはない特長や存在価値を出すってことが何事も大事だと思います。

私は小倉南区から小倉北区までモノレールで何十年も通っていますから、上から小倉の街並みを見下ろしながら、街の所々が建て替わっていく様子を日々観察してきました。この辺もずいぶん変わりましたよね。でも変わらないところもたくさんある。それにどんなに街が新しくきれいになっても、住んでる人間は変わらないんですよ（笑）。

昔は本館の先に古い食堂があつて、子どもの頃にかき氷を食べたりしましたね。今の鷗外橋<sup>おうがいばし</sup>の近くにあった温泉センターは強烈な存在感を醸<sup>か</sup>し出していました。ラーメンを食べに行けば「あんたの父ちゃんも母ちゃんもチャージャーメンが好きやったね」と言われる。一見変わったように見えても、全部つながってる。街とはそういうものじゃないですか。

今の北九州市でどこが一番好きかって聞かれたら、うー

ん、一つに絞るのは難しい。ここに長く住んでいる方は皆そうだと思いますが、優秀なんてつけられないですよね。あえて言うとしたら、鍛冶町の信号が青に変わる瞬間かな。「よし、今から飲みに行こう！」と胸躍るとき風景です（笑）。もちろん且過市場も昔から常連です。古くていい飲み屋がいくつもあったけれど、知ってるマスターが引退しちゃうのは寂しいですね。火災の件も残念でしたが、少しでも力になれたらと復興支援商品の販売をお手伝いしました。

老舗と言われる地方百貨店として、地域の皆さんにできる一番の貢献は何なのか。これはずっと私が考え続けていることです。そしてその答えは「変わらないこと」なのだと辿り着きました。

全国を見渡すと、地方百貨店の淘汰が進んでいます。隣の福岡市でも百貨店経営は厳しい状況です。ただ、小倉の街に根付く私たちが生きる道は一つしかなく、変わらずここにあり続けることなんです。 「グローバル戦略は」という声に耳を傾けるのなら別ですが、私たち井筒屋は北九州でしか生きていけないのですから。地域の皆様の生活と共にあり続けることで80年以上続いてきましたし、これからの時代もそうあるべきでしょう。

そもそも、百貨店が提供できるサービスとは「お買い物」という時間です。自前で商品を作って売る商売ではありません。

すよ。大分のトキハさん、鹿児島山形屋さん、熊本の鶴屋さん。いずれも数万平米ある大きな拠点で商売を続けていらつしやる。まあ、東京からすると「田舎の殿様」に見えるかもしれませんが、今も続く事実が、地域の歴史の中に存在し続けてきたことの証明ではないでしょうか。

私が結論を導き出したのも、お客様からいただいた教えのおかげです。井筒屋に勤めて1年目の年末、大忙しの乾物売り場でレジを離れ、配送を手伝いに行こうとした私を女性のお客様が呼び止めました。「私が頼んだ注文品、いつ届きますか」と。数え切れないほどの注文を捌いているときに、一人のお客様が何を注文したかなんて知るわけないだろうと戸惑いつつ、調べてお答えしました。でも、よくよく考えてみればお客様にとっては一回一回のお買い物も井筒屋とのお付き合いなんです。そういう出来事積み重ねで、地元の方々の暮らしの中で「井筒屋に行けばなんとかなるよ」と慕っていただけの存在になることですか、私たちは生きられないのだと知ったのです。

信頼は長い年月をかけて先輩方が築いてきたものの蓄積に他ならず、それを次の世代に継ぐことが、結局は一番の地域貢献になるんじゃないかと思うんですね。「たくさんは儲からないけれど、地域の方々が喜んでくだ



#### 株式会社 井筒屋

- 設立=1935年(昭和10年)7月30日
- 開店=1936年(昭和11年)10月6日
- 本社所在地=北九州市小倉北区船場町1番1号
- 資本金=1億円
- 従業員数=646名(2022年2月28日現在)
- 売上高=464億円(2022年2月期)
- 主な事業内容=百貨店業。小倉で百貨店を開店後、経済成長と共に、北九州を中心に店舗を展開していく。2018年からは店舗数を縮小し、現在は小倉本店とグループ会社である株式会社山口井筒屋が経営する山口店に集中させた。北九州市民で知らない人はいない地元の百貨店。

せんから、安く作って高く売って、効率よく利益を上げることなんてできないんですね。「オシヤレをしたいな」とか「魅力的なものに囲まれて暮らしたい」という日常の欲求をかなえるための存在であり、一方で「非日常の空間」を求められるから坪何百万円もかけて改装をしなきゃいけないし、接客サービスの質も求められるので人材も必要です。要するに、どうしたって儲からない商売なんですよ（笑）。

だから私はもう腹をくくっているんですよ。大きく儲けようなんて考えたらダメです。お客様が井筒屋でお買い物をすることを楽しみにしてください。商品の揃え、安心安全を約束する設備を整えるくらいは必要ですけど、高望みはしない。とにかく一番大事なのは、百貨店としてこの地が変わらずあり続けることです。この小倉の街に、北九州市に。大学を出て井筒屋に入って食品売り場、そしてスーツ売り場と、40数年働き続けて、この結論に行き着きました。

と言っても、決して自己犠牲的な諦観を決め込んでいるわけではありません。北九州市の人口推移予測によると、60代以上の人口は向こう20年は減らないんですね。今は百貨店を離れている若い方も、その年代になったときには「百貨店が落ち着くね」と戻ってきてくださるんじゃないかという期待もあります。

それに、九州の地方百貨店はなかなか頑張っているんです。さるように踏ん張って「こう」という覚悟が真髓まで染み込んだ人材をどれだけ継承していくかが私の仕事です。それは結果的に、街をこよなく愛する優しい市民を増やすことにもなるんじゃないかとも。そんな運営を維持できる体制を、これからもつくっていかなくちゃいけません。繰り返すようですが、この場所から逃げることはしません。ここでずっとやっていくと決めているんですから、地域の皆さんに受け入れていただく存在を貫くしかない。となると、やっぱり私たちももっと張り切らないといかんですね。

# What's NEJI CHOCO?



北九州は近代日本の発展を支えた製鉄業で成長してきた街です。

2015年には官営八幡製鉄所関連の施設が世界文化遺産に登録。

これを受けて、私たちは北九州ならではのお土産をつくりたいとの思いから

「鉄」をイメージできる商品開発に取り組みました。

着目したのは、それまで不可能だった緻密な立体を再現できる3Dプリンタの可能性です。

「3Dプリンタで型をつかったチョコレート」というコンセプトのもと、

2016年に実際に回せるネジ型のチョコレート「ネジチョコ」が完成。

その後、オートメーション化による量産体制も整え、

北九州を象徴する鉄からネジのチョコレートそれが「NEJI CHOCO」です。



## CHOCOLATE CREATING THE FUTURE.



ネジチョコ ラボラトリー

〒800-0227 北九州市小倉南区津田新町3-15-5

TEL 093-474-9500

<http://nejichocolab.jp/>



天子を祀る修験の山  
英彦山神宮

各種祈願承ります

福岡県田川郡添田町英彦山1番地

電話 0947-85-0001

<http://hikosanjingu.or.jp>

# 屋根・外壁塗装

お電話1本で  
お見積りは私が  
伺います

豪雨・台風・地震! いつ来るかわからない! 瓦の破損、外壁ヒビ割れ確認を!



近年、九州地方で発生した自然災害

- 2016年… 熊本地震
- 2017年… 九州北部豪雨
- 2018年… 西日本豪雨
- 2019年… 台風10号・17号・19号

ハウスペイント 中尾 辰朗

1995年~2000年(株)日立製作所  
本社勤務を経て足場、塗装職人  
としての豊富な現場経験を積み、  
現在、福岡県内で住宅塗替えを  
専門でしております。それぞれの  
お客様に適したご提案ができる  
ように心掛けております。



★60回分割払手数料  
★塗装作業足場代

当社負担

外壁塗替え	20坪	30坪	40坪
建坪価格	38.5万円~	48.5万円~	58.5万円~

工事完了後のお支払いで安心! 見積り無料

お電話1本で即日対応

福岡戸建住宅直塗専門店

ハウスペイント

お客様のお声が原点です、ご相談はこちら。

0120-73-1236

■福岡事務所/福岡市早良区原4-6-7  
■北九州事務所/北九州市八幡西区町  
上津役東1-5-20

ハウスペイント 検索

# 株式会社不動産中央情報センター

代表取締役社長

濱村 美和 50歳

当社は48年前に、市役所職員だった私の父が脱サラして創業した会社です。小倉北区に本社を置き、「不動産業界の質的向上」と「地域活性化」を理念に掲げ、賃貸管理を中心とした不動産事業や高齢者事業、全国の不動産会社に向けたネットワーク事業などを展開しています。2007年に父が急逝し、社長を継いだ当時は戸惑いと不安の中にいましたが、北九州の「人の力」によって支えられ、会社経営を通じて多くの人と出会い、交流を深める中で、北九州という街が大好きになりました。

34歳の若さで、しかも女性が事業継承をするという点、他の地域では相手にしてもらえない現実もあるかもしれませんが、北九州の先輩方は分け隔てなく支援してくれます。職場で長く続く会社が多いからでしょうか。「先代にもお世話になったからね。あんたに任せると決めただんだから、後はよろしく」と信頼関係を第一に考えてくださる方がたくさん。女性も情に厚く竹を割ったようなカッコいい氣質の方が多く気がします。

「北九州の人を知りたい、もっと学びたい」と13年前か



株式会社不動産中央情報センター

- 創立 = 1974年(昭和49年)7月
- 本社所在地 = 北九州市小倉北区東篠崎1丁目3番13号
- 資本金 = 1億円
- 従業員数 = 174名(グループ総数)
- 売上高 = グループ全体28億8,853万円(2021年6月期)
- 主な事業内容 = 福岡県下トップクラスの不動産管理、賃貸仲介をメインに、住宅型有料老人ホーム「ゆうゆう壱番館」の運営、賃貸管理実務研修事業や浄水器FC事業などを展開。暮らしを豊かにする街のブランド価値向上を目指す。

はまむら・みわ

1972年福岡県北九州市戸畑区生まれ。山口大学大学院技術経営研究科修了。1997年株式会社不動産中央情報センターに入社。2007年代表取締役社長および関連会社株式会社デマンド代表取締役社長就任。2013年株式会社デマンド代表取締役会長就任。

ら始めたのが、地元企業の先輩経営者に話を聞くインタビュー企画です。最新号で44回目を迎えますが、「社会のため」「地域のため」「人がすべて」と語る方が多く、この街には「公益の精神」が根付いていることに気づきました。その背景について、千草ホテルの小嶋一碩会長が教えてくださいましたのは、官営八幡製鐵所がこの地にできた歴史との関連です。国家の一大プロジェクトとして全国から優秀な官僚が集まって、日本の未来のために尽くした。その公益精神のDNAが北九州には息づいているのだと。なる

ほど、だから決して派手ではないけれど情に厚く、堅実な人たちと出会えるのかと納得しました。

同時に、「多様性」もこの街の魅力ですよね。もともと「よそ者の集まり」から発展した工業都市だから、お互いに助け合い、新しい人も受け入れるオープンさがある。雪国では「雪かきをしないと地元の人と仲良くなれない」なんて話を聞きますが、北九州では一度一緒にお酒を飲めばたちまち仲良しに(笑)。仕事も生活も始めやすい街だと思えます。北九州に単身赴任で来た市外出身者の交流会、通称「北単会」も開催されていて、ホテル鑑賞や笛会に出かけているのですが、他地域をよく知る皆さんから「こんなに人の距離が近い街はない」という声が聞かれるんです。

今日、この取材を受けている場所、cafe causaも象徴的な場所ですね。市内のリノベーション事業の第一人者である遠矢弘毅さんが「若い人や新しいことに挑戦する人をつなげて応援したい」というコンセプトで開いたこのお店は、いつもユニークな面々で賑わっていて、私も仕事帰りに立ち寄っては刺激と癒やしをもらっています。

私が不動産業を通じて貢献したいのも、まさに「地域のハブ」としての役割です。高齢化・核家族化でどの年代も孤立が社会問題となっている今、住まいに関するサービスを通じて、人と人をつなげていきたいのです。高齢者も、若い人も、女性も、誰にとっても居心地よく、自分らしくあることができる街づくりを目指していきたいです。

# シャボン玉石けん株式会社

代表取締役社長

木村 隼人 46歳

もりた・はやと  
1976年福岡県北九州市小倉北区生まれ。専修大学経営学部卒業後、シャボン玉石けん株式会社入社。入社後は工場の現場、経理、営業を担当。高校時代に父の著書『自然流「せっけん」読本』の原稿を読み、環境への思いを強くする。2001年取締役、2002年取締役副社長、2007年代表取締役社長に就任。

ここは、若松<sup>わかまつ</sup>にある当社の製造工場です。健康な体ときれいな水を守る成分と製法にこだわって、「無添加石けん」をこの工場で作り、出荷しています。

北九州市の環境改善に貢献した企業の一つとして、ご注目いただけるようになったことを心から嬉しく感じています。ただ、そのきっかけを遡ると、自ら発想したというよりも「地域の方々のご期待に応える」という形で、私たちの事業は発展してきました。

「無添加石けん」を生業にする決断もまさにそうでした。もともと合成洗剤の製造・販売をしていた先代の父（森田光徳氏）が、旧国鉄からの依頼を受けて無添加石けんを製造することに。自宅で試作品を使ってみたところ、長年悩まされていた湿疹がみるみる改善したそうです。「体に悪いと分かったものを売るわけにはいかない」と一念発起し、利益度外視で無添加石けんの製造・販売へ切り替えたのが1974年のこと。私が生まれる2年前ですね。ちなみに

私たちのマスコットキャラクター「シャボンちゃん」のモデルは、私の姉です。

無添加石けんは合成洗剤に比べてコストがかかり値段も割高になるため、当初は取引先に見向きもされませんでした。売り上げは100分の1まで落ち込み、従業員も100人から5人まで激減。赤字は17年続きました。それでも信念を貫き続けた父の志を受け継ぎ、地域の皆様のご理解・ご支援をいただきながら、今も変わらぬ商品づくりを続けています。

当社の工場見学ツアーにお越しいただくバスの中で、バスのガイドさんが「北九州市の川や海がきれいになったのは、シャボン玉石けんのおかげです」とおっしゃってくださいましたと聞き、胸が熱くなりました。

消火剤の開発も、「地域のご期待」に応える形で始まったプロジェクトです。阪神・淡路大震災を機に「環境に優





しい消火剤を作れないか」という問題意識を持った北九州市消防局からご相談を受け、2007年に世界初の「石けん系消火剤」が誕生しました。こういった取り組みが「環境未来都市・北九州市の企業の先進事例」として注目されて、海外から視察の申し込みもよくいただきます。ただ一心に「いいものを作り続けること」に集中した結果ではないかもしれませんが、北九州市のイメージアップや他にはない価値創造に貢献できているとしたら嬉しいですね。

私たちもまた、地域の方々に本当にお世話になっていきます。北九州市には独自の技術力を大切にもつくりを続け

と」が重要でしょう。

市内には、社員を数千人抱え、高い技術力で堅実なビジネスをされている素晴らしい会社がいくつもあります。でも、企業相手の商売であるがゆえに、なかなか一般的に知られる機会がない。生活環境としても暮らしやすく、優良企業もたくさんあるという強みをもっと分かりやすくアピールすることが、元気で優秀な若い人たちを呼び込む流れをつくるはずですね。

その意味で、企業側ももっと努力をしないとイケない。自分たちの魅力を発信すること。それも、ちゃんと伝わる形で発信しなければ。決して出たがりではない私が、自分の顔を出して自分の言葉で表に出るようにしているのも「伝えるため」です。

工場見学や出前授業、地域の他企業様とコラボレーションして環境をテーマにした映画を応援させていただくなど、特に次世代の皆さんと接点を増やしていきたいと思えます。市内の大学に通う学生さんたちが、「卒業後は北九州市の会社で働きたいな」という希望を持ってもらえるように、自分たちの取り組みや実績を積極的に伝えていきたいですね。最近の若い方々は、SDGs（国連が提唱する「持続可能な開発目標」）への意識が高いことも、北九州市にとっ



#### シャボン玉石けん株式会社

- 創立=1910年(明治43年)2月
- 設立=1949年(昭和24年)5月
- 本社所在地=北九州市若松区南二島2-23-1
- 資本金=1億円
- 従業員数=150名(2022年10月現在)
- 売上高=89億円(2022年8月期)
- 主な事業内容=化学物質や合成添加物を一切含まない無添加石けん・化粧品などを製造販売。明治期創業の森田範次郎商店から前社長・森田光徳が石けん事業を特化させ、人と環境に優しいシャボン玉石けんが誕生。環境モデル都市・北九州市の取り組みを企業として担う、大きな存在。

るオーナー企業が多く、つながりが強いんです。「あなたのお父さんにはお世話になったからね」と温かい目で見守ってくださる先輩経営者の存在がありがたいです。

また、一人の市民としても、北九州市には愛着があります。小倉北区で生まれ育ち、東京での大学生活を除いてずっと北九州市暮らし。本社のある若松には祖父母の家もありましたので、小さい頃からよく遊びにきていました。若松恵比須神社のお祭りの「おえべっさん」など、ものすごい人通りで活気があったのを覚えています。

子育て中の今は、若松の海水浴場やグリーンパーク、小倉の勝山公園に出かけて、7歳と3歳の子どもたちを追いかけるだけで休日が過ぎていきます(笑)。

北九州市には山も海も川も森もあって、遊び場も工場地帯もショッピングエリアも近場にある。食べ物は美味しいですし、とても魅力的なコンパクトシティだと思います。「でも、アピール下手だからもったいないよね」という話を同世代の経営者仲間ともよくするんです。毎年、「下派手な成人式」が全国的に話題になりますが、あれも「北九州発・日本式ハロウィン」などと銘打てばいいんじゃないかなと(笑)。

この街の明るい未来を考えるとときには、やはり「若い世代」に向けた魅力発信は欠かせません。それは単に数日過ごして満足して帰ってもらおう観光を充実させようという意味ではなく、「北九州企業のパワーをしつかり発信するこ

ととっても、目新しいことに飛びつくというわけではありません。先代から受け継いだものづくりと社会貢献の精神を未来へつないでいくだけです。

目指したいのは、子どもと笑顔で過ごせる「何でもない日常」がこの街の中で続くこと。そのためにも、健やかな環境を次世代に残していけないといけませんね。

時勢としては、原料高騰によって厳しい経営判断にも迫られる状況にはありますが、いいものにこだわる心はぶれずに。情熱を絶やすことなく実直に、やるべきことに取り組んでいきます。

# 株式会社サンキュードラッグ

代表取締役社長兼CEO

## 平野 健二

63歳

ひらの・けんじ

1959年福岡県北九州市門司区生まれ。一橋大学商学部を卒業後、サンフランシスコ州立大学にてMBA取得。1986年株式会社サンキュードラッグへ入社し、2003年代表取締役社長就任。北九州市立大学大学院非常勤講師、九州大学客員教授を務める。公益財団法人経営者顕彰財団から2021年度経営者賞を受賞。

門司港の栄町商店街の一角にあった、母が薬剤師の小さな薬局の長男として生まれました。店舗はわずか11坪しかなく、その2階が6畳間と3畳間の住居になっていたのですが、3畳間は住み込みの社員の方が、6畳間のほうに私たち家族4人が暮らしていました。お祭りの時期には、商店街の通りを次から次に走り抜ける山車(だし)を2階の窓から眺めるのが好きでした。文字や数字を覚えたのも、お店の黒板で。社員の皆さんにずいぶんかわいがっていただき、人の温かさに包まれて育ったありがたみを感じています。

ここ門司港の風景も身近でした。私の父は港近くにあった青果市場の仲買人だったので、よく遊びに来ていたんです。ただ、当時の風景とは様変わりしましたね。昔は大陸からの穀物の輸入も盛んで、沖の大型船から穀物を運搬する木造の舢舨(はんげん)も停まっていますね。海からも建物からも小麦や大豆の匂いがすごくて、近寄れない場所だったんですよ。ところが今や人気のデートスポットでしょ

う？ 開発がもっと早ければ、私の青春の記憶もずいぶんと違っていたかもしれませんね(笑)。

子どもの頃からお世話になってきた地元の方が、「あの平野薬局がこんなに大きな会社になるとは」と喜んでくださるのはやっぱり嬉しい。だから意地でも本社を動かさないんです。求人を考えたら博多に移転したほうがよほど効果的かもしれませんが、地域の皆さんに支えられて育った会社なのだから、絶対に裏切りたくないという思いがあります。

北九州市は海と山が迫っていて平地が少なく、しかも人口が増えているために、郊外が存在していない。昔からの住宅密集地に出店するしかないというところは、広い土地が空いていない。だから、先に押さえてしまえば、他が出てこれないのです。

20年ほど前、国のレポートで「都市部における高齢者の





生活行動の80%は半径400m以内で完結する」と読み、ならば地域のどなたにとっても身近な存在になろうと決めました。1kmごとに出店し、〃エリア限定高密度〃で北九州市と下関市の圏内に74店舗を展開しています。

「身近な存在」とは、その人をよく知っている、あるいは知ろうと努力する存在を指すものだとは私は理解していません。お薬は健康や生命に関わる大事な生活インフラですから、地域に1店舗は日曜日でも処方箋を受け付ける。化粧品はカジュアルな商品から高価格帯のものまで、あらゆるシーンのご要望にお応えできるように地域内でバランスを取る。「サンキュードラッグが人居する前にあったサティ

に売ってた俺のパンツをどこで買えばいい」と言われたら、下着も販売する。地域の困りごとや不満を丸ごと解消できる体制づくりを心がけてきました。人口減少社会の中で地域密着でやっていくと決めたからには、果たすべき責任があるのです。

北九州は福岡に比べて東京・大阪の大手企業からマークされにくい点にも利があります。気づかれないうちに、独自の発展ができるんです。明治維新の中心となった薩長土佐藩もそう。薩摩は九州の、長州は本州の、土佐は四国の、それぞれ江戸から一番離れた場所にあったから革新を起こせた。〃端っこ〃って決して悪くないですよ(笑)。

他にも北九州の魅力はいくつも挙げられます。人口ピーク時に整備された生活インフラが豊かにあり、下水道完備率は日本トップクラスで水不足と無縁。安心して暮らせるうえに住居費も安いから、若い人も好きなことにお金を使える。うちの社員も入社数年目の子が平気で3LDKのマンションを買うので羨ましい限りです(笑)。経済面の豊かさだけでなく、「海や山で遊びたい」と思い立ったとさきすぐ行けるという自然環境面の豊かさもありますよね。こうした魅力をどんどん発信して、アクティブな市民を増やせるといい。県外から一生に一度の旅行者が集まる街よりも、市民が数カ月に一度、いろんな街を行き来して遊ぶ街のほうが実は魅力的だと思っています。

一方で、一部の地域で過疎化が進むなど、人口減少に伴う新たな課題もあります。我々としてできることとして考えているのは、例えばアプリで注文を取って過疎地域の集会所にまとめて商品を届けるというアイデアです。家ではなくあえて集会所にすることで、高齢者が歩く機会や人と話す機会をつくるという意図があります。目先の利便ではない、地域の方々にとっての本質的な豊かさに貢献したいのです。

ホームレス自立支援活動をするNPO抱樸(ほうぼく)さんから寄付の依頼を受けた際にも、「法人として一括寄付もできませんが、ホームレスの方に石を投げる子どもがいなくなる社会を目指す貢献を」と逆提案し、サンキュードラッグの全店舗に募金箱とリーフレットとポスターを設置して、お客様の寄付額と同額を当社からも上乘せして寄付することに。うちは年間1000万回以上の接客チャンスがありますから、NPOの活動の理解・応援する市民を増やすことに貢献できると考えたからです。

このように、企業や非営利団体などさまざまな分野のリーダーが、お互いの強みを持ち寄って知恵を絞り、協力し合うことが街の力になるはず。その点、北九州には郷土愛のあるリーダーがたくさんいらっしゃいますし、会いに行こうと思えば誰にでも会いに行ける良さがあり



株式会社サンキュードラッグ

- 創業=1956年(昭和31年)2月6日
- 創立=1970年(昭和45年)7月11日
- 本社所在地=北九州市門司区黒川西3丁目1番13号
- 資本金=5,000万円(2022年1月現在)
- 従業員数=1,501名(2022年9月現在)
- 売上高=250億5,163万円(2022年3月期)
- 主な事業内容=北九州市、下関市を中心として、ドラッグストアと調剤薬局の併設店舗を早期から出店し、業界を牽引。漢方薬局「つむぎ堂」での相談や、薬剤師、栄養士による在宅管理指導訪問など、高齢者が多い北九州地区のニーズに合わせた医療や商品・サービスを提供している。

若い人にぜひ伝えたいのは、「どんどん先輩に甘えて、利用しなさい」ということ。昔、ある医学部教授から、「いつでも頼ってきなさい」という先輩には甘えるのが礼儀だ」と教わったことがあるのですが、私もこの歳になってそのとおりだと感じます。もしもこの記事を読んで、「街の課題解決のための、あのプランを平野さんに相談したい」と思い立った人がいたら、連絡をください。その一歩を踏み出せる人が街の未来をつくるリーダーだと思えますし、私も先輩方に助けていただいた分、後進の皆さんにお返ししていきたいのです。一緒に頑張りましょう。

# 黒崎96の日実行委員会

会長

## 池本綾女

55歳

いけもと・あやめ

1967年福岡県福岡市生まれ。人と企業、人と行政、人と地域をつなげる、ソーシャルコネクター。福岡女学院短大卒業後、株式会社ふくやに入社。1990年に結婚退職後、1992年から北九州市八幡西区黒崎に転居。1995年に北九州市教育委員会主催の「青年未来塾」に参加。その後、多くのイベント企画運営に携わり、北九州ミズ21委員、大人の部活「タウンドシップスクール」公長も務める。行政や企業の各種委員も。

黒崎96の日実行委員会

●設立 = 2016年5月31日 ●  
主な活動内容 = 毎年9月6日、地域、企業、団体、個人などの「志民」が「志金」と「知恵」を持ち寄り、街全体でお祝い事業や乾杯大会などを実施する。

私は企業の社長ではなく、北九州市のまちづくりを行う「志民」団体の代表をしています。生まれは福岡市なんです。20代前半で歯科医の夫と結婚して、夫が出身地の黒崎で歯科医院を開業することになり、北九州に移り住みました。早いものでもう30年近くが経つんですね。知り合いもいないし、工場の煙突が並ぶ風景を見て、最初は孤独なアウェー感に心がつぶれそうになりました。子どもが生まれると、家業の手伝いと子育てだけの閉塞的な日々。ますます寂しくなって、自分が自分らしくいられる居場所が欲しいと思い、教育委員会が主催するまちづくりのワークショップに参加したことが、今の私の活動につながっています。



以来、出会った仲間たちとさまざまなまちづくりのイベントを企画・実行してきましたが、北九州って行政にも民間にもたくさんの人財がいて、人と人との距離が近いのがいいですね。友情を育みやすい街ともいえます。一度、仲良くなって人脈のアイプができれば、「このことならあの人に聞いてみよう」とパッと連絡すると、魔法のように道が開けていきます。こうした「まちづくりで育む友情」は「タウンドシップ」で街を盛り上げていきたいと思っています。2016年から毎年9月6日に開催している「黒崎96の日」は、黒崎に住んでいる人、働いている人、住んでいた人……みんなの記念日です。会社と家との往復だけになりがちな日常ですが、この日はオール黒崎で一緒に乾杯して盛り上がりましょう。

今日、撮影した北九州空港は、進学や就職で北九州を離れた長男長女との思い出が詰まった場所なんです。まちづくりの活動を始めたのも、子どもたちが誇れる街にしたい、というのが、そもそもの原動力でした。例えば盆踊りのように「あゝ、楽しかったね」という思い出を、たくさんつくってあげたくて。きっとそれは子どもも大人も同じ。住む人みんながたくさんの思い出と共に、誇れる街になるといいですね。

# 株式会社 Mahal.KitaQ

代表取締役

## 宮坂春花

25歳

みやさか・はるか

1997年熊本県八代市生まれ。2018年九州女子大学3年生在学中に、学生団体Mahal.KitaQ(愛称マハキタ)を立ち上げる。卒業後、東京のベンチャー企業に入社して、法人営業を経験したのち、2020年マハキタを法人化する形で、株式会社Mahal.KitaQを起業。

株式会社 Mahal.KitaQ

●創立 = 2018年1月30日 ●  
設立 = 2020年7月7日 ●本社所在地 = 東京都渋谷区代々木1丁目38-1代々木モダンビル4階 ●資本金 = 100万円 ●従業員 = 18人(業務委託含む、2022年10月現在) ●主な事業内容 = 海外教育事業、WEB制作、地方創生事業、人材育成事業など多岐に発展中。

大学2年生のときに故郷の熊本で震災が起き、北九州の大学生たちが集まるボランティア団体に参加しました。そこで知り合った先輩や仲間たちとの出会いや活動がきっかけとなり、女子大生の学生団体を自ら立ち上げたのが大学3年生のとき。ここ、北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」

のホールは、大学4年生のときに、海外からもゲストを呼んで国際イベントを開催した忘れられない場所です。卒業後に法人化して、イベントの企画運営、WEB制作、マーケティング、海外の留学支援などの業務をメインに、現在は北九州と東京を行ったり来たりしながら暮らしています。東京は情報が早いし、人脈も広がり、充実した日々ですが、コロナ禍で海外の仕事はできなくなりましたし、必ずしもいいことばかりではありません。そんなときには、自分が関門海峡の荒波を進む小舟のような気持ちにもなります。

たい人たちがいてくれます。学生時代、「新しいことに挑戦したい」と私が夢を話したときに、「何かできることない?」と、すぐさま手を差し伸べてくれた大人がいてくれたことが、大きな力になりました。北九州にはカフェのオーナーやゲストハウスの運営者など自分らしく自由に生きている大人たちがいて、経験も実績もない若者を応援し、協力してくれる人とないでくれたのです。私たち20代って、起業したり、フリーランスで働いたり、自分らしく生きていきたいという憧れが強いのですが、企業に就職するだけが人生ではないことを教えてくれたのも、このような方々でした。



でも、全国には学生時代に知り合った、志を同じくする友人たちがいますし、北九州に戻ってくれば、会い

私が経験したように、北九州は新しいことに挑戦したい人を前向きに応援する街であり続けてほしい。そして、私自身もまた、次に続く若者たちの「最初の一步」を応援していけるように頑張っていきたいです。

# 株式会社クアンド

代表取締役 CEO

## 下岡 純一郎

36歳

しもおか・じゅんいちろう  
1986年福岡県北九州市八幡東区生まれ。九州大学理学部地球惑星科学科卒業、京都大学大学院人間環境学研究科修士課程修了後、P&Gジャパン入社。その後、博報堂コンサルティングに転職。2017年地元でUターンして北九州市で株式会社クアンドを創業。家業の建設設備会社の取締役も兼任。

### 株式会社クアンド

●設立 = 2017年4月25日 ●  
本社所在地 = 北九州市八幡東区  
枝光2-7-32 ●資本金 = 6,390  
万円 ●従業員数 = 役員2名を  
除く11名、事業委託10名(2022  
年11月現在) ●主な事業内容  
= 製造・建設・メンテナンスな  
どの現場に特化し「あれ、これ、  
それ」を伝える遠隔支援ツール  
SynQ Remote(シンクリモート)  
を開発、販売。あらゆる現場で  
働く人々の「知」を、時間・空間  
・言語を超えて「価値」に変  
換できる世界を目指している。

今日は母校の体育館にきました。主将も務めた戸畑高校バスケット部は僕の青春。顧問の前田宏明先生の熱血指導は今も健在です。出身は八幡です。建設業を営む父のもとに生まれ、新日鐵ゆかりの「起業祭」やスペースワールドなどなにかと「鉄」を身近に感じる環境で育ちました。けれど86年生まれの僕が知る北九州市のイメージは「衰退の街」。外の世界を見たくて大学卒業後は外資系企業に就職し、イタリアで働きました。



で支えるシステムを主に提供しています。街の内側に人を呼び込んでお金を落とし、でもらうのではなく、外に向けたビジネスで稼いで発展する。そんな方法が北九州の産業には合っている気がします。そのほうが人口の増減に左右されないですし、愛着ある風景も守れるんじゃないかなと。僕にとつての「愛着ある風景」は、地元・中央町商店街の焼き鳥屋さんだったり、6歳と4歳の子どもたちを連れて行く科学館だったり。そうそう、僕自身も小学生の頃に旧科学館で物理の展示を見たことが、技術の道に進む原点になったんですよ。

市内の経営者とも交流があつて、特に岡野武治さんにはなにかと助けてもらっています。北九州人は情に厚い人が多いですよ。ね。「理屈はいい。思いを語れ」と(笑)。

先輩方が築いた産業の基盤の上に立たせてもらえる僕らの世代がなければ、面白い挑戦ができるはず。例えば、黒崎から小倉まで自動運転のバスを走らせてみるとか。一方で、街中には昭和が香る鄙びた居酒屋やストリップ小屋も残しつつ。世界に誇る「アヤシさとテクノロジーが共存する街」構想です。この街にしかできない未来の描き方はある。より貢献できる存在になれるよう、力をつけていきます。

# 岡野バルブ製造株式会社

代表取締役社長

## 岡野 武治

41歳

岡野バルブ製造は、1926年に私の祖父が創業した会社です。イギリスのボイラーメーカーの西日本地区総支配人だった祖父が、故障頻度が高かったボイラーの重要部品「高温高圧バルブ」の国産化を志して起業。6年目に国産第1号を納入し、以後、主にエネルギー分野で世界で5本の指に入る実績を重ねてきました。

物心ついたときから「いつかは会社を継ぐのだ」という意志を持っていました。武将を描いた歴史漫画が大好きで、小倉にある当時の勝山図書館に通っては横山光輝『三國志』全60巻を暗記するほど読んでいましたね。家の方針でオモチャは買い与えられず、テレビも禁止だったので、庭の池に入ったり、近所の原っぱで虫を追いかけたりと自然遊びに夢中でした。

生まれは東京です。東京で支社長を務めていた父が本社に呼び戻されたタイミングで門司へ。小学校から高校まで戸畑の明治学園に通い、毎日片道1時間のバス通学でした。

長い通学時間でしたが、小倉の街中を必ず通ることもあり、社会との接点が多い青春時代を楽しみました。父と遊んだ記憶はほとんどありません。私も父親ですが、子どもたちと遊ぶ時間はなかなか。その代わり、父が孫の相手になってくれていて、私もいつか孫とは遊べるのかなと。3年前に社長を引き継いだからは「日本のものづくり産業の復権」を掲げて、新しいことにどんどん挑戦しています。

具体的にどういうことなのか、少しだけ話します。創業100周年を迎え、これからの100年をどう描こうと事業計画を立てるとき、従来の発電向けバルブ製造とメンテナンスだけで生き延びるのは危ないと見えています。一般的に企業の事業転換は30年おきに変わると言われる中で、バルブ一本だけで100年近く続いたほうが奇跡。では、次に何をやるのかというと、何でもありだと思っています。祖父の創業の精神を遡れば明白です。「ボイラーが壊れて

### おかの・たけはる

1981年東京都生まれ。小学校から高校までを北九州市で過ごす。上智大学経済学部卒業後、2006年岡野バルブ製造株式会社入社。設計部門、メンテナンス部門(福島第1原発)、製造部門、営業部門、管理部門、企画部門に従事し、2012年に取締役、2016年常務取締役を経て、2020年代表取締役社長に就任。

しまうと、製造本国のイギリスから代替品が届くまで機械が止まる」という問題に目をつけ、部品の国産化に挑戦した。つまり、「世の中にある困りごとを解決する」というのが根幹の精神であり、うちの存在価値なんです。

その原点に立ち返って、この先により社会に貢献できる事業を考えたとときに、ものづくりだけに閉じるのは違うんじゃないかなと。デジタル化やITの推進は必須だと思いますし、製造業にこだわらず関連サービスの開発も、自分たちの領域だと捉えて準備をしているところです。若いエンジニアが集まっている沖縄にも開発拠点を置き、いろんな業種の他社と組んでのコラボレーションも計画中です。長い伝統を持つレガシー企業ほど、成功の歴史をまっさらな目で見直して、「そもそもなぜこれやってるのか」という上位概念から将来設計をするべきだと思います。



岡野バルブ製造株式会社的主力製品、高温高圧バルブの模型(本社敷地にて)。

というだけ。それもたった100年前の話ですよ。では何が北九州市の強みなのかというと、「新しいものを取り入れて発展させる力」ではないでしょうか。地道に辛抱強く続けて定着させる根性というか、質実剛健の気質がある。過去100年間は、たまたま「ものづくり」で圧倒的な価値をつくれたのですが、アジアにも同等の生産力を持つプレイヤーが増えた今の時代には、同じことを続けるだけでは発展できません。

ここ数年は世の中全体が「未曾有の危機」の連続で、暗いニュースも飛び交いましたが、だからといって受け身のままで明るい未来はないですよ。補償金を頼りにするようでは体力が細るばかりでしょう。

当社でいえば、東日本大震災で原発が一斉にストップしたときに相当のダメージを受け、社会からのサポートもほとんどありませんでした。でも、ここぞとばかりに改革を進め、原発に依存しない事業構成へと変えていきました。今年5月にもサイバー攻撃を受けて全社のシステムがダウン。これもピンチでしたが、古いシステムを一新するチャンスと捉え、安全性の高いクラウド型のシステムに一気に移行しました。まだまだ途上ではありますが、過去の成功体験に依存せず、「これからあるべき姿」を見据えて変化を起こして

北九州の未来についても同じことを考えているんです。北九州市は「ものづくりの街」とよく言われますよね。でも、私はあえて「ものづくり」にこだわらないほうがいいという考えです。たまたま地政学的に近代産業の集積地になった





きた結果、売り上げ規模は縮小しつつも効率的に利益を出せる状態へと変わってきました。私はここ数年筋トレにハマっていて(笑)、肉体に例えると、無駄な脂肪を落とし筋肉質な会社になったかなと。これからは筋力をさらに高め、まずは震災以前の売り上げ水準に戻し、私の代でそれ以上の水準にまで企業を成長させて次代につなぎたいと考えています。

原則的に、レガシー産業と地域にフォーカスを当てていますが、地域のために何よりも大事だと考えるのは「人材の育成」です。子どもたちが先端技術に興味を持つきっかけになればと、プログラミング教室も開催しています。旧本社の敷地を再開発して、何か地域のために面白いことを始められないかと、アイデアを練っているところです。

北九州市の未来を語るときに「環境未来都市として世界に」という言葉はよく聞くのですが、正直、それだけでは弱い。「コンパクトシティ」という表現も、衰退の現実がちよっときれいな言葉でお化粧しているようで違和感があります。人口ひとつとっても、私は「数は力」だと思いませんし、「もう一度、100万都市を目指そう」と言い切るほうが夢がある。負けの中でなんとか生き残るのではなく、勝つための戦略を主体的かつ具体的に考え実行すべき。もっとハングリーに、街の未来を語り合えるといいですね。地域を元気にし、人口も増やすためには、やはり「経

済」と「文化」の力を高めること。この二つに魅力があれば、自然と人、特に若い人材が集まってきます。

経済については、「ものづくりの街・北九州」を今後どうするかではなく、この基盤の上に今後100年を見据え、どのような新たな産業を興すかが重要と考えます。今後の成長やトレンド領域において「○○といえば北九州」と言われるような、日本や世界を牽引する新たな産業の集積地になる必要があります。

魅力ある産業には魅力ある文化が対になっているケースが多い。その意味においても、また若い人材を惹きつけるためにも、経済だけでなく文化の力も高める必要があります。音楽、映像、ゲーム、アート、ファッション、スポーツ等の領域において、先鋭的な文化に対し街ぐるみで寛容で、その道の世界的トッププレイヤーが居を移すような街にしなければならぬ。

そしてこれを北九州市に関わる我々が主体的にやらなければなりません。行政や財界の議論を聞いていても、企業やイベントの「誘致」「招致」に帰結する話が多いように思えます。「誰かにやってもらおう」で産業や文化が興り、定着するとは思えません。街に住まう我々が骨太のブランドデザインを描き、実行していく必要があるのではないのでしょうか。



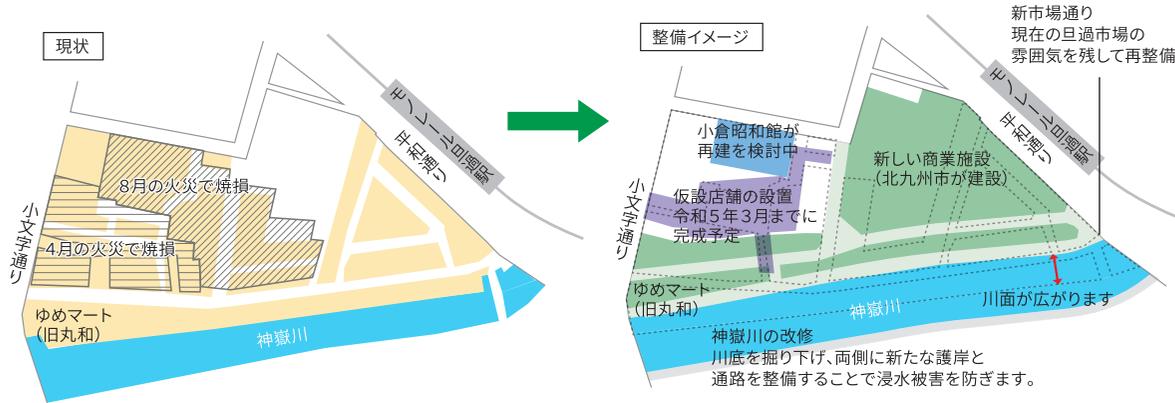
#### 岡野バルブ製造株式会社

- 創業=1926年(大正15年)11月3日
- 設立=1936年(昭和11年)2月21日
- 本社所在地=北九州市門司区中町1-14
- 資本金=12億8,625万円
- 従業員=連結364名(2021年11月30日現在)
- 売上高=連結58億5,000万円(2021年11月期)
- 主な事業内容=日本で初めて発電所向けの高圧高圧バルブを国産化した企業。火力発電所や原子力発電所など発電プラント用の主要バルブをはじめ、各種バルブや工業製品の開発・製造・メンテナンスを担う。近年は、DXの実施・支援や産業振興、地域振興の実施・支援など新事業も展開。

要は、いかに尖るか。これからの時代は、100円のものも1万人に売るより、1万円の高付加価値の商品を100人に届けるビジネスのほうが強いと言われています。街の未来もハングリーに尖らせていきたいですね。マイナスを挙げればきりがありません。複雑に考えず、もっとシンプルに考えたらいいと思うんです。私の楽観主義の源は旅です。これまで60カ国以上、特に発展途上国を多く訪ねる中で、過酷な状況でも前向きに生きる人々の姿に触れ、何事も前向きに捉えるようになりました。「生きていくだけでラッキー」。そう思うだけで、臆せず前に進めます。

## 旦過地区再整備事業について

北九州市は、「北九州の台所」として親しまれている旦過市場において、建物の密集・老朽化や神嶽川の浸水被害など、防災面の課題を解決するために再整備事業に取り組んでいます。こうした中、令和4年4月19日と同年8月10日の二度にわたり大規模な火災に見舞われました。この大火を受け、今後、旦過地区再整備事業の更なる推進を図るとともに、旦過市場のにぎわいを創出することを目的として、令和4年度末までに仮設店舗を設置する予定です。今後とも安全・安心で魅力あふれる旦過市場に発展していくため、スピード感をもって再整備事業に取り組んでいきます。



## 旦過市場の復興について

旦過市場は、二度にわたる大規模火災により市場の約3割が焼損するという甚大な被害を受けました。現在は、クラウドファンディング等による市内外の方々からご支援を得て、がれきの撤去や市場アーケードの修理、イベントの開催などの復旧・復興が着実に進んでいます。市としても市場の皆様に寄り添いながら、復興に向けて支援を続けていきます。



旦過市場主催の復興イベント。  
会場では市民ボランティアが焼け跡に煉瓦を敷き詰めていった。  
(令和4年11月19日)



令和4年12月3日に開始したテント営業の様子。  
後ろは、旦過市場の歴史が小笠原藩の時代にさかのぼることから、  
小倉城の廃瓦に復興の願いを書き入れたもの。



旦過市場商店街  
ホームページ

## つなげよう 未来の旦過市場へ

北九州市 建設局 河川部 神嶽川旦過地区整備室  
〒802-0082 北九州市小倉北区古船場町1-35 北九州市立商工貿易会館5階  
TEL 093-511-7123 MAIL ken-kantaketanga@city.kitakyushu.lg.jp

旦過市場

旦過市場

旦過地区再整備事業

わたしたちの旦過市場

DYNAMITE  
BOAT RACE

新時代の、  
扉を開け



読売新聞社杯 開設70周年記念競走

全日本覇者決定戦

1/20 FRI 21 SAT 22 SUN 23 MON 24 TUE 25 WED

20歳未満の方は舟券を購入できません。無理のない資金で、余裕をもってお楽しみください。

BOAT RACE 若松

http://www.wmb.jp/





旧古河館業若松ビル(国登録有形文化財)



## 日本遺産

関門“ワスタルジック”海峡  
～時の停車場、近代化の記憶～

# 関門 北九州市 下関市 歴史散策



フグ料理



旧秋田商会ビル(下関市指定有形文化財)



門司港駅(国指定重要文化財)



旧門司三井倶楽部(国指定重要文化財)



バナナの叩き売り



旧下関英国領事館(国指定重要文化財)

# KANMON HISTORY

## 関門の歴史と文化にふれる



構成文化財の詳細はコチラ

関門地域行政連絡会議

### \*アンケート&プレゼント

『雲のうえ』へのご感想、今後取り上げてほしいテーマなど、綴じ込みはがきでお寄せください。抽選で20名の方にプレゼントをお贈りいたします。2023年5月15日消印有効。当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。※応募はおひとりさま1号につき1通まで。

A: 産業用ロボット MOTOMAN  
プラモデル(株式会社安川電機)  
⇒ 5名様



B: 超ミニチュア便器  
(TOTO株式会社)  
⇒ 5名様



C: 第一博多人形(2023年千支入り)&タクシーミニチュア行燈レプリカ(ガチャ)セット(第一交通産業株式会社)  
⇒ 5名様



D: 【巨過市場×井筒屋】チャリ  
ティーエコバッグ  
(株式会社井筒屋)  
⇒ 5名様



青雲／白雲  
\*34号の特集「北九州、わが心の風景」は、1つ1つのページに物語がありました。ジャンルジムの話が一番心にしました。行ったところがある場所は当然惹きつけられましたが、「ねじりまんぼ」という、「？」と思うものにも意識が向きました。北九州が身近に感じられる冊子でした。ありがとうございます。  
(熊本市西区・61歳男性)  
\*34号の「馬の慰霊碑」のページを拝見して、涙があふれて止まりませんでした。軍馬だけでなく、軍用犬なども戦地に連れていかれ、爆弾を巻き付けられて…。戦争というものに腹が立ちました!! 松山市にも軍馬・軍用犬の慰霊碑があります。軍人さんたちに手を合わせると同じように、戦争で亡くなった軍馬や犬や猫たちにも手を合わせてあげていきます。(愛媛県松山市・50歳男性)  
\*若い頃、隣に会社の寮がありました。そこ、管理夫夫婦とお付き合いがありました。奥様は熊本から嫁入りしたばかりで、ご主人は戸畑出身で九州のことを話されていました。老後は故郷に戻るとおっしゃっていたので、『雲のうえ』のページを

くりながら、このどこかに暮らしておられるかとも思いました。  
(北海道室蘭市・82歳女性)  
\*且過市場の火災があり、寂しい気持ちでしたが、思い出の写真を見て、市場の活気や香りを思い出しました。燃えてしまった様子を見るとせつないですが、たくさんの写真と心のアルバムに残っているから、少しずつ復興の手伝いができたらと思っています。  
(門司区・47歳女性)  
\*「東京へ行ったクスノキ」の話、感激しました。日本橋が開通して100年目、同じ年のクスノキが1000kmの遠路を乗り越えて移植されたこと知り、愛おしいです。機会をつくってぜひ、木の下に行ってみてみたいと思います。  
(東京都北区・68歳女性)  
\*いつも『雲のうえ』を会社の取引先、友人、知人、その他市以外の在住の人に差し上げています。門司港に家族的な旅館がないと、コロナ前より多く聞きます。宿泊できるところを載せていただきたいです。  
(門司区・82歳男性)  
\*表紙の風景に惹かれて手に取りました。学生の頃よく通った北九州。とても懐かしい気持ちになりました。まさか長野で手に入るとは!

嬉しさでいっぱいです。優しい海の姿にゆっくり訪れたくなりました。  
(長野県茅野市・30歳女性)  
\*私の母校、修多羅小学校が統廃合となります。高塔中学校、八幡西高校と、小中高の母校がなくなり、北九州での青春の大切な風景が少しずつ消えていきます。年齢が増すとに子供時代の思い出の場所が減っていき、寂しいです。  
(福岡県遠賀郡・62歳男性)  
\*私が住んでいた戸畑の西中原にあった製鉄社宅の写真は、どんな冊子にも紹介されたことがありません。今一度、社宅の全景が見てみたいと思っています。JR九州工大前駅のガードをくぐって200軒ほどありました。(八幡西区・75歳女性)  
\*北九州市内の施設巡りをテーマに取り上げてほしいです。図書館、学校、介護施設、市民センター、公民館などの活動や内容を紹介していただければ幸いです。(若松区・69歳女性)  
◎お詫び  
35号で「大里南(だいらみなみ)市民センター」を市民会館「大里南(おおさとみなみ)市民センター」とする誤りがありました。お詫びいたします。

\*『雲のうえ』キャラクターの名前が決定しました。当選者は福岡市の古橋道明さん。多数のご応募をありがとうございました。



次号予告  
『北九州市、中華料理店の人々』

### \*『雲のうえ』在庫無料配布中

- ◆30号 北九州やきとり豚バラ日記。
- ◆32号 すし並一人前から眺める北九州。
- ◆33号 皆さまからのおよりで綴る「雲のうえからこんにちは」
- ◆34号 北九州、わが心の風景。
- ◆35号 北九州家のいただきます。ごちそうさま。

◎お名前、ご住所、電話番号、ご希望の号を明記し冊数分の切手を同封して、下記MICE推進課までご送付ください(1~2冊/250円分、3~4冊/390円分など)。1名様1号あたり1冊。数に限りあり。  
〒802-0001 北九州市小倉北区浅野3-8-1  
TEL 093-551-8152  
北九州市 MICE 推進課『雲のうえ』送付係

雲のうえ 最新版 検索

\*北九州市にぎわいづくり懇話会では、『雲のうえ』への広告掲載企業を募集しております。⇒北九州市 MICE 推進課『雲のうえ』送付係まで

北九州市  
にぎわいづくり懇話会  
https://www.lets-city.jp/

# 北九州市は、「2050年カーボンニュートラル」に向けた取組を進めています！

気候変動対策にみんなで取り組むプロジェクト

## KitaQ Zero Carbon

—— キタキューゼロカーボン ——

あなたのアクションを“見える化”して  
エコな未来を一緒に創りましょう。



### 「カーボンニュートラル広報大使」 が任命されました！！

北九州市の環境マスコットキャラクター  
「ていたん&ブラックていたん」が  
「カーボンニュートラル広報大使」に任命されました。  
「カーボンニュートラル」について分かりやすく紹介します。



カーボンニュートラル  
北九州市

©ていたん&ブラックていたん, 北九州市

### 2050年カーボンニュートラルに向けて

北九州市は、企業などと連携して、「カーボンニュートラル」に向けた様々な取組を進めています。

自然と調和した暮らし  
やすいまちづくり

ゼロエネルギーハウス  
ゼロエネルギービル

自転車利用の促進

歩きたくなる道路

自動車の電動化

質の高い緑化

洋上風力発電の導入

カーボンニュートラルポートの形成

公共施設  
再エネ100%電力化

水素エネルギーを「つくり」  
「はこび」「ためて」  
「つかう」取組

市民の方にも、一人ひとりできることがあります。できることから始めてみましょう。

詳しくは「ゼロカーボンアクション30」参照

